



発行所 アシュラムセンター  
523-0894 近江八幡市中村町 567-2  
Tel 0748-33-4030  
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ  
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772  
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

『死ぬ瞬間』の著書で知られるキューブラーロス博士は、2004年8月24日に亡くなられた。その葬儀は、棺の前で、参列者たちが一斉に、様々な種類の蝶を放つという非常に印象的なものであったという。「博士は脳死体験をした患者の研究に没頭し、みずからも体外離脱体験を含むさまざまな神秘体験を繰り返しながら、『からだはそこから蝶が飛び立つサナギのようである』と確信するにいたり、収容所で死を前にした人たちが『たましいの永生』を信じていたのだということを理解したのでした。」(キューブラーロス著『ライフレッスン』訳者あとがきより)

若き日ボランティアとしてナチスの収容所跡を訪れたさい、その内部の壁のいたるところに爪や石で刻まれた蝶の絵を発見し、それが彼女の生涯をかけての死というものに対する謎解きの始まりであったという。人間には死を前にして「否認」、「怒り」、「取り引き」、「抑鬱」そして「受容」という5つの段階があるということを、ロス博士は終末期患者への膨大な聞き取りの中から見出し、今日のホスピスケア(緩和ケア)につながる先駆的役割を果たした。その彼女自身が、自分の死を目前にし

りではなく、恐ろしく悲しいものではない。それはちょうど蝶がさなぎから飛び立つように、古い体を脱ぎ捨て、新しい服を身に纏い、新しい世界へと羽ばたいていく、美しくそして自由なものなのだ。「神のなされることは皆その時になんて美しい。神はまた人の心に永遠を思う思いを授けられた。それでもなお、人は神のなされるわざを初めから終わりまで見きわめるこ

て思い至ったのは、「生がいいものだとかわかれれば死もいいものであるはずだ。生も死も、おなじ名匠の手によって作られたものだから」というミケランジエロの言葉であり、そこから彼女は「わたしたちに生命、幸福、愛など、すばらしいものをたくさんあたえてくれる名匠の手が、死だけを醜悪な経験にするはずがない」(『ライフレッスン』より)と書くのである。死は決して終わ

瞑想

とはできない。」(コヘレト3:11) 旧約の知恵はこう教える。神の支配し給うものすべては、皆その時になんて美しい。確かにナチスによって無残にも虐殺されていった人々の姿を、ただ単純に美しいとは言えないものがある。しかし、その壁に残された羽ばたく蝶の絵と「たましいの永遠」を見据えていた彼らの想いは、何者にも代えがたい美しさがあるのではないか。

んなことを考えている。確かに肉親の死は、悲しいものがあり、痛ましいものである。特に娘を亡くした母の涙は見るに忍びない。けれどもその母も、いつかは死に、これを書いている私も死ぬ。そして読んでいるあなたも。まさに死は誰にも平等に与えられるものなのだ。だがもう一つ、私たちには与えられているものがある。「神はまた人の心に永遠を思う思いを授けられた」。死は決して終わりではなく、その先にあるものへの始まりであり、絶望のその向こうに希望があり、悲しみは必ず喜びに変えられ、痛みはいつか至福のときへと昇華する。私たちは、この全てをなされる神の業を見極めることはできないだろう。しかし、私たちにはそれを確信することはできるのだ。そして、生きるとはその確信を深めていく事に違いない。

主幹牧師 榎本 恵

コヘレト3:11

驚くべき事に、その死を前にした多くの人々が、キューブラーロスのインタビュに答えて「この病に感謝する」と告げたと言う。もちろんそのまでの過程において、怒りや妬み、絶望や抑うつを訴えていても、息を引き取る最期の「死の瞬間」は、まさに厳かであり、静謐で美しいのではないか。この春、妹の死をまじかに経験した者として、私は今こ

そして、いつ死ぬ事になっても、胸を張ってこう言うことができる。「ああ、私は生きた」と。キューブラーロス『ライフ





# 関西青年アシラムより

日比 美里

8月16、18日と関西青年アシラムに参加することができ、感謝します。連日の猛暑

分すぎるくらい満たされる恵みがありました。大声で祈らなくても、神様が私の内に語り掛けてくださいました。それが今回のアシラムに初めて参加し頂いた最大の恵みでした。

これからも神様との一対一の集いを大切に守っていきたくて願っています。アシラムが終わった後にも心に残っている宝があります。二泊三日を共に分かち合い祈り合ったファミリーの皆さんです。来年の教職アシラムが今から楽しみです。(単立とねりキリスト教会牧師)

にも関わらず、この三日間は、朝夕の涼しさを味わえる程天候にも恵まれました。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」ルカ17章19節 重い皮膚病を患っている十人のうち一人のサマリヤ人はイエス様の足元にひれ伏して感謝し、神を賛美するために戻ってきた。毎朝のレビの時、イエス様の下に感謝して戻って来ると

主題聖句は「旅人をもてなすことを忘れてはいけません」(ヘブライ人への手紙13章2節)でした。人と真剣に話すことが苦手な私にとつて「旅人をもてなす、このお言葉を聴いて、立ち上がって出かけられる幸いを感謝しました。労してくださった委員の方に心より感謝します。

科学が進歩し便利な時代に生きる人には、神様の言葉・イエス様の言葉は無意味と思われるかもしれませんが、しかし、今は何が起こるか予想のつかない不安な時代でもありません。このような時代にあつて主は「わたしは、決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにはしない」と言ってくださり、私を

アシラムに参加して聖書に静聴し御言葉に触れることで多くの気づきがあります。教会生活の長い私ですが聴くこと、祈りの少ない自分を思いまします。主を信頼し、主につながり、神を賛美する喜びの信仰生活をするのが「旅人をもてなすことを忘れてはいけません」という今回の主題に通じるものではないかと思つています。(福岡中部教会)

## 第21回 福岡1日アシラムに参加して

伊達 洗次

福岡1日アシラムが7月16日に開催されました。今回からアシラムセンター主催で、西南学院の百年館において行われました。初めてアシラムに参加する方が多く与えられ共に御言葉に聴き、それぞれの課題のために祈りあえたことは感謝でした。

「気づかずにもてなす」これも更に難しいことでした。榎本恵先生は「私たちこそが、気づかずに御言葉を通して主にもてなされている。」と語られました。

もてなして下さる主であると気づきがありました。アシラムに参加して聖書に静聴し御言葉に触れることで多くの気づきがあります。

内藤 達也  
東京聖書教室  
福岡1日  
アシラム  
野波志都子  
森山 直子  
常任運営委員  
のための

アシラム  
(開会、完講の時)  
福川聖書教会  
榎本 栄次  
榎本 広子  
榎本 敬子  
米田 邦子  
渡辺 センター  
聖書教室  
吉田すみみ  
狩野 富吉  
和田 哲政  
常任運営委員会  
佐藤 千代  
東 千和  
加藤 和子  
天上の友を  
憶える日礼拝  
チャイルド  
センター  
(池田  
チャイルドの会)  
堺大浜  
キリスト教会  
83口  
¥1,105,848

ヨセフ基金  
(義援金)  
吉田すみみ  
福岡1日  
アシラム  
菅原 博  
センター基金箱  
ちいろば  
アツちゃん・  
シユラム君  
5口  
¥13,700

新修道場  
のために  
たびんちゅ牧師  
1口

会堂改築の  
ために  
鎌田 速明  
1口

合計  
90口  
¥1,131,548

専いご献金、  
ご献品、お祈り、  
お便り、電話  
メッセージ、  
そして、共に  
アシラム！  
感謝いたします



# 静まりの世界への主の御導き(3)

証 唄野隆・絢子(ご夫妻)

(堺大浜キリスト教会)

大学の卒業期が近づいた頃、私は卒業後の進路について考えはじめた。そして、自分の人生を主のために用いていたのだと願った。母にそのことを話したら、「隆が生まれたとき、牧師や宣教師ではなくても神さまの御役に立つ人になるようにと祈ったのよ。」との答えだった。当然のように牧師や伝道者への献身を考えたが、牧師、伝道者の生活の険しさを知っていたので、恐れた。その頃よく読んでいた内村鑑三の著作から、独立自給の信徒伝道者ということを聞き、心が動いた。特に当面、目の前にしていたKGCの学生伝道では、それによって生活を支えることなど考えられず、なんらかの仕事を得て生活を支えながらでなくては進められないように思えた。しかし、内なる祈りの世界で、それは自分の生活は自分で握りしめなが

ら、主のために働く者という名誉を求める道ではないか、と迫る声がかえってきた。その思いが内に強く迫ってきたとき、「そんなら、すぐにも神学校へ行つてやる。」と叫んだ。そのとき、目の前が真っ暗になり、「それは悪魔の声だ。」という声がかえってきたように思った。恐れおののき、あわてて、「今のは取り消します。すべてをお委ねします。初めから御導きください。」と祈った。恐ろしい経験だった。それは、聖なる御方を前にした二度目の出会いだった。そして、また、献身者となろうとする思いの奥に潜む強烈な自己主張に気づかせ、悔改めて、すべてを主に委ねして主の御導きに従う姿勢を整えさせるための主の備える時でもあった。それから、どんな仕事に進めばよいか主の御導きを求めて祈りなおした。「すべてお委ねし

ますから、みこころを示してください。」と主に祈り、①自分が生きる今の時代の主の目から見たニード、②私に与えられている賜物、③今までの摂理的な御導き、を思いめぐらし、いま学んでいる金融論の研究を続け、大学の教師となり、学生が出会う問題を共に考え、学生たちに主を証し、クリスチャン学生を助けることが私に与えられた召しだとして止めて、大学教師となり、またしばらく後にKGCの協力主事となった。協力主事はボランティアのような形で学生伝道を助けられる働きである。そして、家では、近隣の子どもたちにも福音を伝え、若者たちと共に聖書研究をした。その交わりが成長し、今の堺大浜キリスト教会になった。

大学の教師になって間もなく、絢子との結婚に導かれた。回心への道を開いてくれた高橋さんがKGCの主事になっていて、東北巡回中、絢子に会って、紹介してくれたのである。結婚したとき、私は、「二人が向かい合って御茶を飲むよいうなことをしていたら腐っ

てくる。同じ目当てに向かつて、同じ歩調で、スクラム組んで歩もう。」と言ったことを覚えている。教会生活も、家の日曜学校も、KGCの奉仕にも、二人で関わった。家の日曜学校には、いろいろな問題児が飛び込んで来た。学生が入り浸った。いつも共に事に当たったが、主に彼らの世話に当たったのは絢子だった。私たち二人は交わりの中で、夫婦の交わりは楽しんで共にする者の間の、いわば戦友のような交わりであった。奉仕に向かつてのスクラムを組んだ交わりで、互いに向き合う交わりではなかった。楽しく励ましを与えてくれるものではあったが、人格と人格が向き合う、安らぎと潤いのある親密な深みのある交わりとは言いがたかった。仕事に追われ、奉仕が忙しくなると、落ち着いた安らぎが必要になる。だが、その頃、私たちは、そのことに気づいていなかった。生まれたばかりの家の教会の働きや、学生との対応、子育て、などに追われて、夫婦の間で、戦

友関係は育ったが、二人で静かに向き合うことの必要には気づかないまま日が過ぎていった。そういう状況で、1977年の夏から1年間の海外研修で私はイギリスに行った。留学期間が終わりに近づいたとき、訪ねてきた絢子と一緒にスイスのビュルク先生を訪問した。木立に囲まれたビュルク先生の隠れ家に案内され、静かな庭に立ったとき、突然、絢子が立ちつくした。ビュルク先生と私は、バルコニーで黙って、見守った。絢子の静まりとの出会いの時であった。そして、私たちの静まりの世界への旅立ちだった。(つづく)

「目覚めなば 御言葉を聴き即祈り いろいろ先生の 今日が始まる」

小林佳子姉、歌集 であい 第二集より(前常任運営委員)

地震、台風被災地の方々のため、お祈りしています。北海道のアシュラムの友に皆様からのヨセフ基金をお献げしました。その御礼文を一部ご紹介いたします。

アシュラムの皆様 2018.9.12

イエスは主なり。  
この度の地震災害のため、皆様の祈りと共に義援金を送って下さりありがとうございます。用いさせてこれから皆で祈りつづつ、どのように用いさせて頂るか、決めたいと思います。…  
とり急ぎ、お礼申し上げます。…  
札幌アシュラム 吉田すみあ

# アシュラム修道場生活記

## その20

### 「土地」

伊達 平和



子どもの頃から教会に行っていると、何度も繰り返し読まれる箇所がある。イエスさまの「たとえ」シリーズが上位に入ってくるが、「種を蒔く人のたとえ」もその1つだ。ある農夫が種を蒔いた。ある種は道端におちて鳥に食われ、別の種はよい土地におちて100倍、60倍、30倍にも実を結ぶという例の話だ。8月は「学生のための修道場アシュラム」が近江八幡で開催され、この箇所が与えられた。このたとえを巡って人は「私はどんな種だろう」「私はどんな土地だろう」「どんな実を結ぶのだろう」と自分を省みる。そして「私はどんな土地だろう」。これが今回のテーマである。

土地を考えるにあたって、まずは修道場の夏の畑の総括をしたい。無農薬、有機栽培、自然農法（という名目の適当農法）がウリの修道場の畑だが、今年はよく虫にやられた。トマトにはカメムシがつき、きゅうりにはウリハムシがついた。オクラは今年の夏の最もよく取れた野菜だったが、なんだかよくわからない虫に葉っぱをくるくる巻にされ、いまもなお食られている。おかげで収量は多くはないが、この夏は修道生が少なかったこともあり、1人で消費するには十分な量がとれた。自分で育てたオクラで

味噌汁やトマトとオクラの和え物を食べると、お腹だけでなく心も満たされる。

畑をやってて良いのは、種や苗を植えて、あとは水やりをしているだけなのに、実をつけてくれるので、「あーやっぱり神様はいらっしゃるんだなー」と実感できることである。もちろん農薬を撒き、肥料をすきこんだらもっと収量は増えるだろう。でも、自分は農家ではないので、そこまで管理する時間が無い。ということで、修道場の畑はこのくらいでちょうどよい、と割り切っている。聖書によれば良い土地に落ちた種は「100倍も実を結ぶ」となっているが、この程度の畑でも、種は100倍ほどになっている。

さて、神様の言葉が蒔かれた自分の心はどんな土地だろうか。振り返ってみると、自分は「よく耕された土地」に無理やりしようとして、化学肥料を入れて、農薬をまいて、表面的にキレイにしながら、収量をあげようとしている気がした。でも、きっとこんな調子で土地を酷使していると、いつかきっと疲弊してしまうのではないだろうか。自分の心も修道場の畑のように、雑草が生え、虫の沢山いるような自然農法にしたほうが、かえっていいんじゃないだろうか。

心を自然のままにしておくということはとても難しいことだ。自分は仕事や人間関係など、沢山のものに縛られて生きているから、自由に振る舞っている（少なくともそう見える）人を見ると、羨ましくてつい「このやろう！」と思うことがある。でも、最近はそれでもいいかと感じている。今はきちんと「自分の自然な畑」の姿を確認したい。そういうわけで、しばらくは、自分の中に沢山渦巻いている負の感情をよく見つめ、間引くことなく適宜表に出すことにした。いやなことはいや、やりたくないことはやりたくない。その結果、10倍ほどしか実らなかったとしても、きっとそれはよい土地であり、よい実だろう。

夏休み、和休みの孫達、兄の腹話術。大笑い！



阪神ミニアシュラム、皆輝いて...



笑顔に感謝！(大阪聖書教室の後で)



早天祈祷会後の嬉しい食卓



新 恵師自宅 電話Fax番号変更のお知らせ  
050・1094・9236

10月の聖書教室など	
5(金)	阪神ミニアシュラム(主恩教会 PM1:00)
8(月)	福岡聖書教室(博多クリオコートホテル PM1:30)
11(木)	常任運営委員会(アシュラムセンター)
16(火)	大阪聖書教室(大阪クリスチャンセンター AM10:30)
17(水)	カフェちいろば聖書入門講座(京都・伏見区深草 PM1:30)
19(金)	センター聖書教室(アシュラムセンター AM11:00)
20(土)	広野祈りの家(兵庫県三木市志染 PM1:00) 猪瀬姉宅
21(日)	ちいろば牧師記念チャペルタ礼拝・愛餐会(PM5:00)
22(月)	静岡聖書教室(旧・英和女学院宣教師館 PM2:00)
23(火)	東京聖書教室(御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)
23(火)	桜美林リトリートアシュラム(桜美林大学荊冠 PM2:30)
24(水)	ちいろば祈りの家(東京都町田市 PM1:00) 黒見姉宅

10月のアシュラムなど	
1(月) 2(火)	第42回 山陰アシュラム (シャトーおだか) 080-5493-9242 奉仕者 榎本 恵師 遠藤誠一師
5(金) 6(土)	第23回 北陸・富山アシュラム (インテック大山研修センター) 0767-22-5142 奉仕者 加々美 要師 岩城輝雄兄
8(月) (祝)	第8回 岩松アシュラム (日基岩松教会) 0895-32-2114 奉仕者 新垣達也師 新垣由子師
16(火)	第22回 埼玉一日アシュラム (上尾キリスト教会) 048-726-2208 奉仕者 岩波久一師 秋山信夫師
26(金) 27(土)	第19回 愛知一泊アシュラム (南山学園研修センター) 0562-47-0528 奉仕者 岩波久一師 溝口勝幸師

11月のアシュラム予定	
5(月) 6(火)	第39回 札幌アシュラム 奉仕者 榎本 恵師 011-561-7951 吉田すみゑ師
14(水) 15(木)	第42回 阪神アシュラム 奉仕者 榎本 恵師 0748-33-4030 アシュラムセンター
20(火) 22(木)	第43回 京浜アシュラム 奉仕者 山川 暁師 048-789-1325 加々美 要師
30(金)	合同平和祈禱会inアシュラムセンター 奉仕者 中村吉基師 「いのちの水」翻訳者(新教出版社)

12月以降のアシュラム予定	
12月8日	センタークリスマス礼拝・愛餐会・フリーマーケット
2019年1月24~26日	第44回 年頭アシュラム

## みことば

下妻シャロームキリスト教会牧師

山本 悦子

列王紀上19章

「静かにささやく声」

「風の中に主はおられなかった。風の後には地震が起きた。しかし、地震の中にも主はおられなかった。地震の後に火が起きた。しかし火の中にも主はおられなかった。火の後に、静かにささやく声が聞こえた。」列王紀上19章11節以下

この記事の物語は、高齢になり疲れ果てて、預言者職を放棄しようとするエリヤへの試練と、彼の使命に焦点が当てられています。風の中にも、地震の中にも火の中にも主はおられませんでした。

何と、ささやく声はエリヤに対する内面的、個人的なものだったのです。

神の摂理は、それが、決して論理的でなくまた目を見張るような顕現によってでもないのです。

死を神に求めているエリヤに対し、自然と歴史とを支配される神は、エリヤに預言者職を放棄することを拒絶し、神はエリヤを説得し、彼に今まで以上の使命を与えて職務に復帰させるのです。

年老いても、エリヤにはまだやらねばならぬことがありました。それは後継者の育成です。「そこで何をしている」と神様は洞窟にいるエリヤに問うています。

憔悴しきった預言者に対する神の処方、新たな職務の委任と預言者個人の成功や失敗を越える未来への約束があるのです。

安全なホレブの洞窟を出て、ダマスコの荒野に旅することは楽ではありません。

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたと共にいる」マタイ28章20節 イエス様はどんな時にも共にいて下さいます。

こうしてエリヤは3人に祭司職を任じ、バトンタッチします。エリヤに与えられた啓示は「静かにささやく声」の中から与えられたものでした。

## あとがき

アシュラムの友の皆さん、私たちはお互いにこの時代を生きるものとして、心しなければなりません。洪水、地震、猛暑、それら自然現象ばかりでなく、政治や経済、社会は混乱を極めていくように思われます。もう世の終わりが近いと思う人たちがいてもおかしくはないでしょう。しかし、主の言葉のように、「慌てないように気をつけなさい。そういうこととは起こるに決まっているが、まだ世の終わりではない(マタイ24:6)のです。私たちは、しっかりと目を開き、落ち着いて、この現実のただ中で、ともに助け合い、祈りあい、励ましあっていきましょう。



和子母の祈り

(恵)